

# 第 78 回日本放射線技術学会学術大会総会学術大会 未来への潮流と変革

第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会  
大会長 白石 順二

今回、第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会の大会長を務めます白石順二です。現在、日本放射線技術学会(JSRT)の代表理事を拝命しており、この第 78 回総会学術大会では大会長と代表理事の二足の草鞋となりますが、代表理事が大会長であることの利便性を活かし、多くの会員の皆様に研究の楽しさ、学会に参加することの素晴らしさを感じていただけるような大会にしたいと考えております。その大会長の私を全面的にサポートしてくれる実行委員長は大阪市立大学医学部附属病院の市田隆雄先生です。一部の会員の皆様には奇異な組み合わせに見えるかもしれませんが、私は 2001 年にシカゴ大学に研究員として渡米するまでは、大阪市立大学医学部附属病院で 21 年間、診療放射線技師として勤務しており、市田先生とは 38 年にわたり、お互いに強い信頼で結ばれた関係です。さらに、今回の実行委員の中には、市田先生と同様に大阪市大病院で私と一緒に研究活動をしていた先生が別に二人（對間博之先生、辰己大作先生）おられます（写真参照）。まだ私が 30 代の頃、毎日のように研究のことを語り合った後輩達と、20 年という月日を経て、こうして総会学術大会を一緒に作り上げるようになるとは思ってもいなかったことで、私にとっては感無量です。他の実行委員の先生方も私がシカゴ大学の研究員をしていたころに短期留学でシカゴに来られ、それからずっと仲の良い関係が続いている長島宏幸先生、学会の金庫番として絶大な信頼を寄せている赤澤博之先生と、万全の布陣をもって皆様をお迎えする所存です。



横浜での現地参加、Web 参加に関わらず、多くの皆様のご参加を実行委員一同、お待ちしております

さて、今回の JRC2022 のテーマは「未来への潮流と変革 Radiology - A key for the paradigm shift」です。近年、放射線医学の世界には人工知能（AI）が画像診断や画像処理に適用され、その放射線医学を技術的にサポートすべき放射線技術学領域でも、AI を応用した研究が多く行われています。しかし、多くの研究者が気づき始めているように、ブラックボックス化された AI からの出力を盲目的に利用することには未知の危険性があり、十分な注意が必要です。また、（遠隔診断というジャンルはあったものの）これまでは対面が基本で行われてきた診療行為が、COVID-19 の出現によって、リモートによる診療の必要性が高くなってきています。時代はまさに転換期を迎えようとしており、放射線診療もその例外ではありません。新しい時代において、われわれに必要とされることは専門性の強化と多職種との協調だと思います。そのため、今回の大会長企画のシンポジウムでは、「JSRT が進むべき未来 一より良い放射線診療を目指して」をテーマに据え、JRC 代表理事の金澤右先生、JRS 会長の村上卓道先生、JSMP 大会長の西尾禎治先生、そして、JART 会長の上田克彦先生に、JSRT が今後進むべき方向性についてご意見を伺いたいと思っています。世の中の関心事となっている医療被曝のことや、福島原発事故の環境汚染にともなう国民の間違った理解など、放射線に関してわれわれ関係団体が一致団結して国民に対して発信すべきことは沢山あります。放射線技術学に関する研究を推し進めることがわれわれの本務ではありますが、放射線を扱うプロ集団として、国民に必要とされる団体になるための転換期が来ているのではないかと思います。そういった観点から、この第 78 回総会学術大会にご参加いただき、新しい潮流を感じ取っていただければと思います。

今回の第 78 回総会学術大会はハイブリッド開催で、Web 配信は大会開始日の前日からオープンする予定です。リモート参加で現地入りできない会員の皆様のために、機器展示や学会会場でのホットなニュースを、JSRT 関東支部精鋭の動画撮影隊の協力を得て随時配信する予定です。ぜひ、お楽しみにしてください。一般演題発表での質疑応答の場面も後日に動画配信しますので、発表後の検討会や学会参加報告会など、多岐にご利用いただければと思います。さらに、JSRT が 2022 年度から開始する会員の専門部会入会の無償化（一人一部会）を推進するため、JSRT の 7 つの専門部会（画像、核医学、放射線治療、撮影、計測、放射線防護、医療情報）のことを良く知ってもらうための企画も用意しています。これらについてもオンデマンドでゆっくりご覧いただき、自分が目指すべき専門分野を決めるための道標にいただければと思います。